

(様式3)

自己評価結果票 さくら2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人一人の自尊心を大切にすることを目標とした理念を掲げている		地域の中で、その人らしく暮らしていくための理念を新しく作成した
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人入社日も説明しユニット入口にも掲示して職員は基本姿勢として心に刻み取り組んでいる		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	現在の理念は入居見学時はパンフレットにも記載してあるが、さらに説明し、交流の時も説明している		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時に会った方へは挨拶を必ずするよう心がけ、小学生との交流時は近所の子が多いらしく遊びにきてくれるよう声掛けしている		気軽にたちよってもらえるための取り組みとして見学の予約制をなくし突然でも対応できるようにしている
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会はないが、学校や近隣の人たち、民生委員の方々との協力で、子供たちとの交流を何回か行い地域に少しずつ浸透しており、運営推進会議でも意見交換がなされ、今後の地域のつながりがますます密になる様子である		地域の方との交流は、民生委員の方や子供たちとの交流を主として地道に継続していきます

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約のときは、重要事項他、すべての書類を説明するが多くの説明を受けて、質問すらわからないときもあるので、後日でもいつでも、受け付けることも伝える		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中で、利用者の思いに耳を傾けるようにしているが、すべての利用者の意見不満等を十分に汲み取れているとはいえない。		利用者一人一人との関わりをさらに深めていく中で利用者の思い、意見、不満等に気付きそれが反映されるように働きかける
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理は小遣い帳の提示にてサインを頂き、健康管理面や暮らしぶりは随時報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や面会の少ない方はTELにて報告時こちらから問い掛けたり、質問箱を玄関に常設し職員も声をかけるようにしている		質問箱は今まで一度も利用されたことは無い出来るだけこちらから問いかけることを続けていきたい
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見要望は随時聴くようにしている。内容により毎月の代表者会議で報告し検討してもらっている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現行の勤務体制で業務を調整してほぼ定着しており急変時は状況により人数調整している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎日のかかわりの中でできたなじみの関係は維持してこそなので、異動は最小限にして退職日も新採用者が少し慣れてからにしてもらうなど配慮している		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員指導は働きながらの指導が主である。計画的とはいえなが個別ケア-を確立するため個別指導は行っている		今回外部研修に1名参加してもらう予定である勤務に支障をきたさないようにするため多くは出せないが毎年受けさせたい
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とのネットワーク会は定期的に参加している福祉全体の情報をえて参考になっている		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みや不満意見の対立などチームワークで支えていくために抱え込まないよう随時話し合いに応じるようにしている		毎日ミーティングはしているがリーダー会議や全体カンファレンスは流動的なので定例化していきたい
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	前向きに日々のケア-に集中できるようにつまづきや職員間の対立を避けるよう配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用にいたる前には家族はもちろん本人にも会い本人の思いも出来る限り聞かせていただき関係作りの第1歩として大切な時間だと思っています</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談はTELでも見学時でも入居申し込みの有無も関係なく必ず受けさせていただいてます</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護の相談を受けた以上、家族だけで苦勞せずに続けていくために他のサービスの情報提供は必要だと思いついている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に面談で来所して頂き、その後は入居と同時にサービス開始となる。他者や職員との関係がとれるまで家族の方には頻りに面会に来てもらうように依頼している</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念に基づく介護がまさにこのことで“一緒に生活する人”という視点で支えあう関係を大切にしています</p>	<p>職員は月日の流れと共に心身共に変化もしていく利用者から学びながら、より良い関係を築いていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は家族の面会時には必ずお茶を出し、利用者、家族、職員が共に会話ができる場を設けている		
29 利用者ど家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者ど家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者ど家族との関係がよりよく築いていけるよう、利用者との会話や、面会時等の会話の内容に配慮している		
30 馴染みの人や場所との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に情報として生活歴や新しい人、普段よく出る名前、地名などきいて対応している		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係、相性には気を配り、利用者同士が関わり合うように努めている		利用者同士の関係にも日々変化が生じるため、職員はその点も把握しながら支援していきたい
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後はSWやケア-マネジャーとの連携を取り落着くまで支援している。又職員も思い思いに退去先に面会に行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人一人の思いを知り把握するために話相手になり情報交換しチームワークで支えて行くよう取り組んでいます</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に 家族や本人から生活歴や入居にいたるまでの経過の中で個別性を重視した情報を得ている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別ケア-シートに個々のケア-で本人に出来るところを把握し手を出しすぎず又出来ない所をさりげなく支援するケア-を統一して行っている</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の健康状態、精神状態、日常生活全般において情報交換し計画作成している</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3～6ヶ月毎に見直ししているが個別ケア-は細かな対応多く変化に応じてケア-の見直しを期間にとらわれずに行い、まず連絡ノートで伝える</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア-を3回に分けて記録している又申し送りも行い情報の伝達、共有に努めている		日々のような利用者の様子や職員個々の気づきを記録に残す際、共有すべき情報であるため、分かり易く記録する
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	私たちが対応できる範囲で出来るだけの支援を行っている		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは編物、音楽療法、踊りなど入居者の意向に応じて活動してもらっている。編物と音楽療法は毎月定例化している		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望の問い合わせはケアマネジャーからが多く待機になることがほとんどなので、現状に応じて話し合いにしている		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ほぼ毎月認定調査等で包括支援センターのケアマネジャーと話す機会があり協力をえている。又運営推進会議にも出席して頂いている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は24時間連絡可能でどんなことでも相談にのって頂き大変助かっている又定期診察外も異常時往診して下さり協力的である		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科医と心療内科共に相談しやすい先生で、精神面の安定まで細やかに協力して頂いている		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師だが健康管理は、主治医との連携のもと、最も大切な業務と心得ている。必要時訪問看護との連携もとる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は介護サマリーを提出し病棟ナースとSWに依頼し時々訪室し退院まで状況把握している		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対象例には早い段階で家族、主治医と繰り返し話し合い、利用者の意向に沿った終末期ケアの方針を全員で共有している		対象例があり、家族の意向をふまえ、手探りではあったが、主治医や訪問介護の協力を得て、自然な形での看取りを体験させていただいた
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対象例には、利用者が安楽に日々が過ごせるよう、家族の面会を増やし、主治医や訪問看護との連携体制を密にしたチーム支援を行うことで、ホームでの終末期ケアを行った		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念にもあげているように一人一人の自尊心を大切に一人一人の人間としてプライバシーを確保して関わるよう周知している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>その人に理解できる、方言や馴染みの言葉を使うことで、利用者の理解を得られるように勤めている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人に個性がありペースがある。できるところも出来ない所も一人一人違うそれを個別ケアにも記入して共通したケア-ができるように心がけている</p>	
つき			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容は数名の方が希望の店を利用し大半の方は訪問美容で満足している。メイクやマニキュアのサービスも好評と言える</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまでは毎日入居者の方にお手伝いして頂いている。食材は外注にてメニューは決まっているが毎日好評である。嫌いなものには個別に配慮している。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	定時のおやつ以外で本人の希望に応じて食べたいおやつ等の購入はできる。家族からの持込もできるが冷蔵品はお預かりして適時本人へ渡す		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護の基本として出来るだけオムツにせず又尿意を維持するよう個別排泄ケア-にはチームで取り組んでいる		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人浴をゆっくり楽しんでもらえるよう配慮しているが、時間は3人体制の時間帯にしているため、希望時間への配慮は十分とはいえない		安心安全な入浴のため、スタッフ1人がかかりきりになる、同時に他者の見守りも必要で安心安全な介護をトータルで行うために職員が3人の時になってしまう
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜に良眠できる方、不眠として日中寝てしまう方など様々で精神安定のため安眠の確保は大切ととらえて毎日要観察している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力に合わせた役割を把握しその維持に努め好きなことや楽しむことの声かけ職員も共に楽しむ事に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これは家族の方の協力が重要となる自分で所持したい方は金額も含め家族の判断にしている。ほとんどの方はこちらでお預かりして安心を得ている		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やおやつ等の買い物などは、ほぼ日常的だが勤務体制により、時間帯は限られている		時間帯は限られていても、散歩や買い物をごく日常のあたりまえのこととして、積極的に支援していきたい。又個別の様々な外出支援の形にも、もっと応援したい
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物や外出など2名づつ位で出かけることはある。家族の協力で外出の多い方もある。		事情により家族の協力が難しい方の希望に応じた外出も取り入れていきたい
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から依頼があれば電話の取次ぎは行っている。手紙も希望に応じて対応している		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由なので、いつでも誰でも時間制限なくゆっくりできる		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	室内独歩だが筋力低下にて外出は車椅子の方もすこしづつ増えてきた。転倒のリスクも高くなっているが身体拘束はしない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営推進会議の結果を受け、正面玄関は施錠することとした	○	家族や地域の人たちから、防犯上の要望があり、玄関を施錠としたが、オープンな雰囲気は損なわないように配慮していきたい
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		年2回の消防訓練を定例化している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>個々のADLにおおじて考えられるリスクはケアプランにも上げて、対策もあげ取り組んでいる</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>いつもと違うと思ったら必ずバイタルチェックして排泄もチェックして異変に気づき次第すぐに報告する体制はとっている</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書はユニット毎設置している。下剤は随時調整している。高血圧や糖尿病の薬は別包で表示している</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘による不快不穏を取除くため毎日チェックして個別対策にとりくんでいる</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>食後は必ず行い特に昼食、夕食後、職員が2~3人のとき念入りに行い、又歯科医のチェックも依頼している</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一回の食事摂取量はかならずチェックし水分チェックは必要時行っている。体調不良、食欲低下の時等</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎回食前の手洗い、うがいの継続又外出から帰宅時と、面会者や職員も手洗いはこまめにおこなっている		
79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1年を通じて食中毒の予防に配慮しているが、特に6～9月は食中毒予防の広報記事を職員に配布し、食材への安全な取り扱いに注意するよう周知している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関外側は季節の花を植えて散歩の度に楽しんでもらっている。玄関内も植物を常設し明るくしている		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年々生活感を感じさせる共同空間になっている。少し物が増えているが何も無いより生活の臭いがある		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングに和室コーナーは自由に座って話して過ごして頂く場所になってきていると思う		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明でも入居時も、本人の使い慣れた物、気に入っている物等、持ち込んでもらう様依頼している		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	心地よく生活して頂くために又感染予防のためにも、毎日の換気は行っている、又温度調節はエアコンの風を嫌う人がいるので気配りしながら室温調節している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計になっているが、リビングが広く手すりの無い部屋はソファや机を支えに歩く方も多い。安心して移動できるよう配慮している		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の出来る所、出来ない所をみんなで共有して役割づくりとその維持に取り組んでいる		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関外側はベンチを設置して気軽に利用できるようにしている周囲の花や花木も入居者の方の水やりで、生き生きして散歩の時の楽しみになっている		



部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 把握している 意思表示の困難な方もいる
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 日中だったり夕食後だったりと日によって時間は違う
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 自分のペースで生活されていて、職員も把握している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない スタッフが声かけ関わることで表情がよくなっている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 散歩は喜んでいるが、それ以外の外出は十分でない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 主治医の協力があり健康管理できている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 安心して暮らしていると思う、帰宅願望の方も夕方には落着く
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない 面会時報告したり面会少ない方はTELにて報告し訴えをきているが、家族との会話や便りでは、信頼関係が取れている表現が多い
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない クリスチャンの入居者さんには、教会の信者数人が月に一回は訪れ、居室で一緒に過ごされる

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	これから徐々に深めていきたい
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	入居者とのいい関係が出来ている、新しい職員は努力している
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居時にみられたり帰宅願望は、日を重ねるごとに薄れていき、利用者さん・職員とも馴染みの関係が築かれているように思える
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	満足していると思います

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域とのふれ合いが、年を重ねるごとに増していき、ボランティアによる編み物教室や音楽療法はホームの日常生活の一部になっている。定期的に催される運営推進会議でも地域との交流が更に深まる方向での意見交換がなされている。地域の幼稚園・小・中・高等学校との交流も定着し、毎年トライアルウィーク・ワークキャンプ・おゆうぎ会等がホームで実施されており、交流のあった子供、生徒たちから利用者さんに便りも届けられている。